

京都少年鑑別所所長賞

勇気の一步

京都市立養正小学校六年 村上 豪瑠

私が学校生活を送るうえで一番問題視する事は「いじめ」についてです。「いじめ」は長期にわたって繰り返される肉体的、精神的苦痛です。これは、いじめる側、いじめられる側だけの問題ではなく見ている第三者にとっても苦痛です。なぜならば、いじめられている人を見ると自分も辛い気持ちになるからです。いじめが増えれば暗い世の中になっていくことでしょう。

では、どうすればいじめを止めることができるでしょう。とても難しいです。「見て見ぬふりをしてはいけません」といわれても実際に行動に移すことは簡単ではありません。まず、「いじめをする人には近づきたくない、怖いから関わりたくない。」と思ってしまうからです。

いじめる側にも、いじめられる側にもなりたくない。そうして第三者であり、傍観者になってしまふのです。では、傍観者のままでいいのか、できることはないのか、考えてみるのが大切だと思います。そこで私はいじめをなくすために大切だと思ふことを考えました。私が大切だと思ふのは、「勇気」、そして「丁寧な言葉」です。

一言で「勇気」と言っても色々な立場の勇気があります。まずは、「傍観者」の勇気です。目の前でおかしいと思ふことが起つているということに対し、おかしいと素直に行動に移す勇気です。私たちはその行動が正しいか正しくないかは大体わかっています。だからこそ、その判断を行動に移す必要があるのです。この勇気があれば、いじめが見逃されていくことはなくなるはずですよ。

そして、「いじめを受ける側」の勇気です。どんな理由があっても人はいじめることとおかしいです。だから「いじめを受ける側」が勇気を出すなんておかしと思う人もいるかもしれません。それでも必要な大切なことなのです。誰かに相談することはきつととても怖いことでしょう。でも、この世にいない方がいい人なんていません。みんなが誰かにとって

大切な存在なのです。だからこそ、怖いという思いを乗り越え、誰かに相談する勇気をもってほしいと思います。

次に「丁寧な言葉」です。言葉というのは暴力などと違って、誰でも簡単につかうことができ、誰にとっても便利です。だからこそつかい方を間違えてしまつと取り返しのつかないことになってしまいます。今の時代、SNSなどを通じて、相手の反応を見ずに、そして自分の表情も見せずに無責任に言葉を発することもできてしまいます。しかし、「丁寧な言葉」というのは無意識につかいくいものだと思います。それは、丁寧な表現にするために、一度立ち止まって考えてから話すからです。一度立ち止まることで、発する言葉が変わります。つまり、そもそも言葉の暴力が起らないようにすることにつながるのです。また、言葉の言い方が強いとそれだけで批判されているように感じる人もいるため、丁寧な言葉によって、そのような思い違いも少なくなるはずですよ。

さらに、「丁寧な言葉も」「言葉」です。つまり簡単に使うことができるのです。だからこそ、だれにでもすぐでき、いじめの防止にもつながると考えました。みんながもつべき、自分の言葉を変える「勇気」です。

これらのことからやはりいじめをなくすのに必要なのは「勇気」と「丁寧な言葉」だと思います。これから自分もどの立場であったとしても、そのときに必要となる勇気をふりしぼれるようにします。そして、言葉を使うときに、一歩立ち止まって丁寧な言葉にしていくなかで、「いじめ」によって辛い思いをする人をなくしていきたいと思ふます。自分自身が行動し、伝え広げていくことで、いじめのない明るい社会を創っていきま